4歳児後期（11月頃～3月）

ねらい

- ◆ 葛藤体験を繰り返す中で、自分の気持ちを調整しようとする。
- ◆ クラスの活動の中で、役に立つうれしさや自分なりにやり遂げた満足感を味わう。

《関わり》 親しみ 自己発揮 共感 調整 など	・友達の思いや考えを部分的に受け入れ、一緒に動いたり相手に応じたりすることを楽しむ。 ・友達との遊びの中で、自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらううれしさを感じる。 ・年長児との関わりの中で、憧れの気持ちをもち、同じようにしようとする。 ・友達とのつながりを感じながら、クラスみんなで過ごすことを楽しむ。 ・行事などを通して地域の方と関わり、親しみをもつ。 ・友達と思いがぶつかり合う場面でどうしたらよいか考えたり、周囲の幼児が、解決に向けて自分なりに考えたことを、当事者に伝えたりする。
《自　立》 自信 判断 身だしなみ 礼儀 など	・クラスの活動や行事などの中で力を発揮したことを認められ、満足感や自信をもつ。 ・よくないこと、危険なことをしている友達を見て、止めようとする。 ・友達とのやり取りの中で、自分なりに考えたり行動したりする。 ・必要に応じて、衣服の調節を自分で行う。 ・当番活動に取り組み、役に立つうれしさや満足感を味わう。
《規　範》 決まり ルール マナー など	・友達と生活する中で決まりや約束の大切さを感じ、守ろうとする。 ・避難訓練や安全指導を通して、安全な行動の仕方や集団での動き方が分かり、自分からやってみようとする。 ・共同の遊具や用具を大切にし、順番に使ったり一緒に片付けたりする。 ・遊びながらルールを理解したり、ルールを守って遊ぶ楽しさを感じたりする。 ・ルールや勝敗がある遊びを通して、思い通りにいかない悔しさを自分なりに受け止めながら、遊びを楽しむ。 ・公共の場所での行動の仕方が分かり、自分なりに望ましい行動をしようとする。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 友達に思いや考えが伝わった喜びを感じたり、互いに受け入れて遊んだりすることで、遊びが楽しくなることに共感する。
- 葛藤している場面では経緯を把握しながら見守り、自分の気持ちを調整しようとする幼児を支える。
- 思いがぶつかり合うときには、自分たちなりに思いや考えを出し合う姿や、周りの幼児が一緒に考えている姿を大切にする。状況に応じて保育者が間に入り、周りの幼児も含めて、一緒に考えていくようにする。
- 様々な人との関わりの中で、相手が喜ぶ姿を具体的に言葉に出して伝え、幼児が自分のしたことを実感し、満足感を味わえるようにする。
- 一人ひとりのよさをクラス全体の話の中で話題にして、自信を付けたり、友達のよさに気付いたりできるようにする。
- ルールのある遊びを楽しむ中で困ったことなどを出し合い、ルールの必要性を意識付けたり、みんなで考えたりする。

家庭とともに

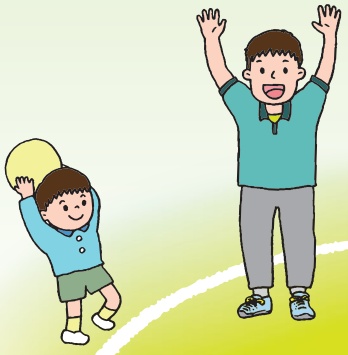
- 一人ひとりが自分の力を発揮することで自信を付けていく時期であるため、我が子を始め周囲の幼児それぞれのよさを、様々な立場の大人が認めることが大切であることを伝える。
- 葛藤を通して体験する場面や内容を具体的に伝え、家庭でも気持ちを受け止めながら見守ってもらうようにする。
- 幼児が園生活で楽しんでいるゲームを親子で体験するなどの機会を設け、幼児の姿を見てもらうとともに、ルールがある遊びの楽しさや大切さを、保護者が感じたり考えたりできるように働き掛ける。

一緒にやってみよう　～ルールのある遊びを一緒に楽しむ～

【目　的】 幼児が楽しみ始めた遊びを保護者が一緒に行うことで、ルールのある遊びの楽しさや負ける悔しさなどを幼児とともに味わう機会にする。また、ルールのある遊びを通して幼児が学んでいることへの理解を図る。

【内　容】

- 幼児が楽しみ始めたルールのある遊びを、保護者が一緒に行う機会を設定する。（中当てドッジボール、しっぽ取り、助け鬼などクラスの実態に応じて）
- 保育参観、降園後の園庭開放の時間など、保護者が参加しやすい時間を設定する。また、安全面や保護者の活動量を確保するため、参加者が適当な人数になるように工夫する。
- 保育者が、一緒に楽しむモデルとなる。また、活動後にその日の場面を通して、幼児が経験していたことを具体的に伝える。
- 保護者自身が楽しんだり悔しいと思ったりすることを、保育者が大切に受け止める。



こものつぶやき

「半分だけ仲直りだよ」

いつも仲のよいｆ君とｇ君。うっかりぶつかって積み木がくずれてしまい、大げんかになりました。お互いに怒って口もきかずにいましたが、しばらくすると表情が落ち着き、「半分だけ仲なおりだよ。」とｇ君が言いました。

まだ、怒った気持ちも残っているけれど、仲良しの友達とまた遊びたい。その思いが、気持ちを調整することを後押ししているのですね。

あんな場面　こんな場面　（指導例）

自分の気持ちと向き合う

4歳児11月

今日は楽しみにしていた絵本の貸出しの日です。Ｌ児は以前に保育者が読んだ絵本を選びました。バッグにしまおうとしているとM児がやってきて「ぼくが借りる！」と絵本を取り上げようとします。Ｌ児は「嫌だ！」と絵本を抱え、M児と引っ張り合いになり泣き出しました。

その過程を見ていた幼児や、泣き声に気が付いた幼児が周りに集まってきました。保育者は、幼児の様子を見守ることにしました。

幼児たちは「Ｌちゃんが嫌だって言っているんだからやめなよ。」など、思ったことを口々に言い、M児は怒った表情のまま手を引きます。

「Ｌちゃん、嫌だったね。」「悲しかったね。」と声を掛けたり、頭をなでたりと、周りの幼児はＬ児を慰めようとしています。M児は何も言わず、怒った表情をしています。

ここがポイント！

○　**時間をかけて自分と向き合い、気持ちを調整する機会を大切にしましょう。**

「昨日はごめんね。」

しばらくして保育者が声を掛けると「ぼくも見たかった。」とM児。「そう。M君も見たかったんだ。でも、無理に取ろうとしたから、Ｌ君びっくりしたよね。」と言うと、M児は「うん。」とうなずきました。

翌日の朝、Ｌ児とM児は身支度をしながら、前日のテレビの話題で盛り上がっています。するとM児が「昨日はごめんね。」と言いました。Ｌ児は照れくさそうに「いいよ。」と言い、２人でふざけ合い始めました。「M君、『ごめんね』って言えたのですね。」と保育者が言うと「仲直りしたんだ！」と満足そうにM児が言いました。

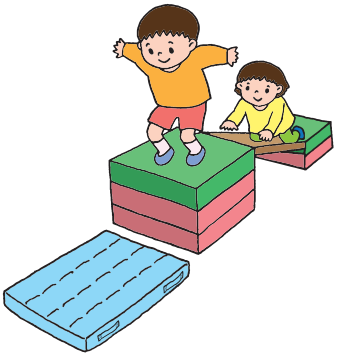
- けんかなどの葛藤場面で、周りの友達や保育者に言われたことをきっかけに自分と向き合い、気持ちの調整をしようとするようになっていきます。
- 友達の様子を見ることは、友達の思いを察したり善悪を自分なりに判断したりすることにつながります。

危険なことに気付いて行動する

4歳児2月

巧技台を自分たちで組み立てて遊ぶようになってきた4歳児。組み立てながら、一本橋のところで「ここは危ないな。」と言って、友達と一緒にマットを運び、一本橋の下に敷いています。

遊び始めると、「Nちゃんが行ったら、次の人が行っても大丈夫だね。」「そこからジャンプするのは危ないよ。」など、一緒に遊んでいる友達の行動をよく見て、自分なりに判断したり、危険な行動を注意し合ったりする姿が見られます。



ここがポイント！

○　**安全に気を付けて遊ぶ機会をつくり、そこでの幼児の気付きや行動を、クラスの中で十分に認めましょう。**

「こうすると、危なくないね。よく気が付きましたね。」

幼児は、その後も体を動かすことを十分に楽しみながら、危なくないように遊ぶために必要なことに気付き、そのために必要な準備をしたり声を掛け合ったりしていました。

保育者は、片付ける前に皆を集合させ、その日に幼児が気付いたり直したりしたことを、その場所を見ながら全体に伝えました。そのとき、「こうすると危なくないね。よく気が付きましたね。おかげで、みんなが楽しく遊べました。」と子供の気付きや動きを大いに認めました。

幼児は「また遊ぼうね。」と言い合いながら、満足した表情で最後まで片付けていました。

●　遊びや生活に必要なことに気付いて行おうとする姿を認め、実現できるようにしていくことが、クラスの中で力を発揮し自信をもつことにつながります。このことは、自分で考えて行動する素地にもなります。

〈この姿の背景には…〉

- 巧技台の扱い方や安全な遊び方などは、保育者が繰り返し教え、身に付けさせてきています。そのことが、友達と一緒に組み立てたり遊んだりすることができ、危険な場面に気付いたり、4歳児なりに必要なことを考えて行動することにつながっています。
- 巧技台のように大きく重い遊具を扱う際には、保育者がそばに付き、安全を確保した上で幼児に行わせることが必要です。
- けがにつながるような危険な行為や巧技台の組み方に対しては、その場で毅然とした態度で教えることが大切です。

使ってみませんか？　〈資料等〉

◆ 安全指導の工夫

安全指導では、時期や幼児の実態に応じて活動の工夫をすることで、幼児がその必要性をより強く感じながら活動することができます。

また、確実に身に付けさせたい行動は、合図や手順、行動などを常に一定にして、積み重ねていくことが大切です。

平成25年度　東京都教育委員会安全教育推進校　千代田区立番町幼稚園の取組から

「こんなときは　どうする？」　3歳児（3年保育）

〈防災教育用カード「ぼうさいダック」や絵表示の活用〉

指導方法の工夫

- 自分の身を守るためには様々な動き方があることを、幼児向け防災教育用カードや絵表示等を見せながら確認する。
- 実際に体を動かしながら遊ぶことで、自分の身を守るための動き（※）が自然に身に付くように指導する。

実際の取組

◎　保育者のリードでゲーム遊びをしながら、安全な身の守り方のポーズを行う。

保育者「起きた　起きた」と節を付けて言う。
幼　児「何が起きた」と答える。
保育者「地震が起きた」とカードを示す。
幼児はその場でしゃがんで、頭を守る「ダックのポーズ」をする。

※＜自分の身を守るための動き＞

- 地震：ダックのポーズ
  （頭を守る。）
- 台風：うさぎのポーズ
  （うさぎのように耳を立てて黙って情報を聞く。）
- 火事：たぬきのポーズ
  （ハンカチを口に当てて、姿勢を低くする。）
- ハチ：ぞうのポーズ
  （慌てて動かずに、ゆっくりハチから離れる。）

カードゲーム「ぼうさいダック」

この教材は、安全・安心の「最初の第一歩」を子供たちが実際に体を動かし、遊びながら学ぶためのカードゲームです。指導項目は、日常の危険（災害、交通事故、犯罪）に対する対応や、挨拶、マナーについて学べるカードも含まれています。

カードの表面には危険（身の回りの危険、災害）のイラストが、裏面にはポーズをとっている動物のイラストが描かれています。

「幼児用総合防災教育教材の作成に係る検討委員会
―報告書―」
（東京消防庁　平成21年3月）から

「いつも見ているよ　みんなのことを」　4歳児（3年保育）

〈保育室内のテレビモニターの活用〉

指導方法の工夫

・　地域の方の顔写真を見せ、身近な存在であることを感じられるようにする。

・　地域の方が心配していることとして、マンションの駐車場やエントランスで遊ぶことの危険性を話す。その際は、実際の場所の写真を見せ、なぜ危険かを幼児に考えさせるようにする。

実際の取組

◎　子供祭りや運動会等で来園されたときの写真をテレビモニターに映し、地域の人が自分たちのために活動してくれていることや、応援してくれていることなどが分かるように具体的に話す。

◎　マンションの駐車場やエントランスの写真を映しながら、こうした場所で遊ぶとどんなことが危ないかを幼児に聞き、気付かせる。また、幼児が気付いていない危険性（死角になることで、助けることができにくい等）を教える。

「『まもる君』でいられるかな？」　5歳児（3年保育）

〈園内の安全マップの作成、活用〉

指導方法の工夫

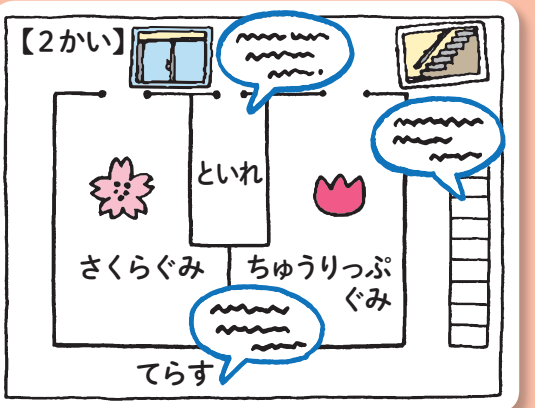
・　幼稚園内の地図を見せ、生活をしていて困ったことや自分に起こった危なかったことなどを聞き取っていく。地図の中で実際の場が分かりやすいよう、園内の写真を添付する。

・　吹き出しの形をしたシールカードを用意し、話しきれなかったことや新たに気付いたことなどを幼児が書き込んで貼ることにより、園内の安全マップを作り上げて、幼児の意識を高める。

実際の取組

◎　新しく吹き出しを貼った幼児に、なぜ貼ったのか、どのように気を付けるとよいと思うかを、皆の前で聞く。幼児同士で考えを出し合う。

◎　「なぜいけないのか」だけではなく、「なぜそうすることがよいのか」という観点で、幼児に確認し、考えを引き出す。

◎　幼児が経験したことを「まもる君」「うっかりさん」などの、安全指導の中で使っている言葉を使いながら、安全に対する意識が高まるようにする。

※シールカードへの記入は、保育者が聞き取って書く、補足するなど、幼児の実態に応じて援助する。